

臨床放射線

編集委員

今井 裕
後閑 武彦
栗原 泰之
橋本 順
森 壘
中村 和正

編集協力委員

畠中 正光
小川 恭弘
松永 尚文
森 宣
村田喜代史
淡河恵津世
西山 佳宏

編集後記

◆本号の特集では、“癌の診断・治療・緩和におけるIVR：日常診療に役立つtips”を取り上げました。IVRは、interventional radiology (IR)の略ですが、日本では画像下治療 (IVR) という言葉が定着しています。IVRの歴史は、1967年にMargulis教授がAmerican Journal of Roentgenology誌にeditorialとして掲載した論文“Interventional diagnostic radiology: a new subspeciality”により、画像診断技術を用いた低侵襲治療法という新しい概念が提唱されたのが始まりです。現在は、世界中で多くのIVRが日常の診療で実施されていますが、今回は、癌の診断、治療におけるIVRの応用について、「診断・治療支援」と「支持療法・緩和」のテーマに分けて、我が国で最も多くの症例を実際に担当されておられる専門医の先生方に執筆していただきました。診断において決め手となる画像ガイド下生検に関して徳江先生には、準備段階での患者の全身状態の把握、血管解剖を含む画像の検索、生検針の選択、画像ガイドに用いる診断装置の選択、そして適切な標的病変の選択と安全な穿刺経路の選択、合併症の対策、あるいは術者のX線被ばくの最小化など、実際にIVR手技を行う際に留意すべき事項や考え方について記載していただきました。また、高齢者が多い癌の外科手術、化学療法や放射線治療の経過の中で生じる種々の病態に対して、局所麻酔下で行うことのできるIVRは、癌の診療においても今後ますます重要な役割を果たすことは間違いありません。ぜひ、読者の皆さんにも日常の診療に役立ててほしいと願っています。

◆近年、野球の大谷翔平選手をはじめとして、サッカーの三笥薫選手、バスケの渡邊雄太選手、バレーの石川祐希選手など日本人の選手が、世界のスポーツの舞台で活躍しています。自分が生まれ育った環境や文化と異なる海外のチームでプレーすることは、本当に勇気のいることです。目の前の新しい文化や人々の考え方を理解し、そのうえで自分のすべきことをきちんと行い、チームに貢献する、本当に素晴らしいことと思います。若い放射線科医の先生方も、しっかりと準備をして、海外のひのき舞台で大いに活躍されることを願っています。

今井 裕

「臨床放射線」第68巻第13号

2023年12月10日発行（毎月10日発行）

定価 2,970 円（本体 2,700 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 44,990 円（本体 40,900 円＋税 10%）

〔年間13冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕

年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

TEL 03 (3811) 7165 編集部直通

TEL 03 (3811) 7184 営業部直通

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

広告申込先 文京メディカル TEL 03 (3817) 8036

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。